

授業科目名	担当教員名	授業実施日	※
学問の面白さを知る	飯島先生・Sir Kroto	7月12日(土)	4
学生番号	学部・学科	学年	氏名
06080267-7	理学部	1年	山内 承久

はじめに、飯島澄男先生と Kroto 先生の夢のような講演を聞いて、貴重な体験ができたと思う。

僕の好きな言葉にシャーロックホームズがワトソンに言った言葉がある。

「ワトソン君、見ると観るは違うよ。」この言葉から、僕の人生は、絶えず“観る”ということになった。そして、飯島先生の講演を聞いて、このスタンスは、決して間違っていない、科学の大発見につながる姿勢なのだ自信を第一回目の公演と合わせ、改めてもらった。しかし、科学の世界では、観る“武器”を持つことが重要だと飯島先生は述べられた。光、X線、電子線、中性子線などなど、観る手段を極めることが必要だと話され、自分のこれからのいい指針になったと思う。

0次元のフラーレン、1次元のナノチューブ、2次元のグラフェン。これらの性質は、教科書に載っているような状態図にはない。だからこそ、こういう物質が面白い。また、Kroto 先生は、「Molecule is dynamic.」と述べていた。また、Kroto 先生は、New Aspect, 新しい見方を大事にするようにも述べていた。

「偶然はよく準備された人に微笑む」というパスツールの言葉と、飯島先生のナノチューブ発見との関係が垣間見られて、嬉しかった。グラフィットの成長過程を考えるために、まず、フラーレンの成長過程を観るという演繹的な考えを持つということ。また、飯島先生が細長い結晶の解析を学士、修士の論文のテーマにしていたこと。そして最後に、隣の研究室の炭素の“燃えカス”を観るといところが、極め付けだった。まさに、よく準備されている人にとっては、カスが世紀の大発見になる、ということが分かる。

最後に飯島先生のメッセージで、興味深かったことは、発見するための要素と生きるための要素は、同じであるということである。好奇心・知識・根気・観察・機会・運などは、実社会においても重要なファクターとなるということ、心に刻んでおきたい。

さて、Kroto 先生は、若い科学者にもものすごく期待をしていた。「Young scientist should be hero and icons.」と熱弁していたのが思い出される。身が引き締まる思いで僕は聞いていた。

Sustainability ということ、1. 水 2. 太陽エネルギー 3. 窒素循環を述べた上で、リサイクルの必要性を述べていた。スカラベ、俗にいうフンコロガシが地球を回している絵は、ユーモアに溢れていた。

また、科学の世界は国際性に溢れていることを、研究室のメンバーの出身地を上げながら説明されて、話題は、国際問題への貢献へと移った。二つの革命的な出来事として、Press 印刷とインターネットを挙げ、GEOSAT への取組を紹介した。

過激な思想をもった政治家が増えている中で、科学の役割は、“なぜ”という疑問に答え、考えを裏付けすることだ、と述べられた、Kroto 先生。世界中の子どもたちが、科学に興味を持つようにするための手段として、メディアに期待する Kroto 先生の姿勢がうかがえた。特に、世界中のみんなが貢献できるインターネットへの期待は絶大であった。ペニシリンのような、単純な化合物が、数えきれないぐらいの人々を救ったことを例にあげ、自分も新しい薬を作りたいと述べていたことは、会場の人々の心に訴えるものがあつたのではないかと。

ある学生への回答の中で、心に留めておきたいと思つた言葉は、“Determination”だ。諦めずに、前に進む。そうすれば、飯島先生のように、行った先々に恩師となるべくいい先生に巡り合えると信じたい。